

前 言

在急剧变化的现代社会中，围绕儿童与青少年的发展、心理以及教育与福祉制度的课题日益复杂。家庭、学校和社区三大生活圈的状况变化不定，支援的边界也缺乏专业，对应方法模糊不清。在这种社会背景下，若仅停留在单一领域的视角，已难以充分理解个案的适应与发展。

本特辑旨在从多角度综合探讨教育、心理与福祉的关联性。主题涵盖：家庭关系的淡薄化、亲情障碍、生育史视角下的发育理解、霸凌行为的心理社会结构、发育障碍大学生的现实状况、心理健康支持、青年教师的成长与自我理解、各类疗育方法的可能性，以及社会关系的构建与稀薄化等。通过架构理论与实践的桥梁，提出支援模式的建议与展望。

青春期及大学阶段可被视为自我形成过程中的“第二个发展临界期”。亲情关系与生育经历所形成的内在世界，深刻影响着大学生与青年教师的适应、人际关系及心理健康。同时，欺凌、不登校与发育障碍等现象，不应仅被视为学校层面的课题，而应在广阔的社会文化语境中加以理解。这些问题不仅存在于中日两国，更是整个亚洲地区所共同面对的构建性课题。现代社会正处于人口动态变迁、教育制度多元化、家庭结构变化，以及跨国信息与文化交流深化的复杂变革之中。中日两国虽共享文化共性，但在教育制度、福祉政策、家庭观念与社会支持体系等方面各自发展出不同的路径。这些差异与共性不仅是比较的对象，更是构成相互学习与知识共创的重要领域。

国际比较研究的积累，丰富了我们对于青少年期心理独立观、教师文化与心理健康、家庭关系结构、霸凌的社会文化决定因素等诸多问题的理解。这种知识的对话超越了单一文化的理解与制度习惯，也提示了支援方式与文化特性交织的关键节点。

本特辑基于中日国际共同研究的成果与视角，期望能为教育、福祉与心理领域的专业人员，以及肩负未来的青年研究者与学生提供希望与创造的视野。

2025年12月1日

编辑委员会一同

巻頭言

急速に変化する現代社会において、子ども・青少年を取り巻く発達・心理的課題や、教育・福祉の制度的課題は一層複雑化している。家庭・学校・地域という三つの生活圏が揺らぎ、支援の境界が曖昧化する今日、個人の適応や発達を理解するためには、単一領域に閉じた視点では不十分である。

特集には、親子関係の希薄化、愛着障がい、生育歴に基づく発達理解、いじめの心理社会的構造、発達障がいのある大学生の実態、メンタルヘルス支援、青年教師の育成と自己理解、各種療育方法の可能性、社会関係の構築と脆弱化など、多角的視点から教育・心理・福祉を統合的に捉える試みである。理論と実践を架橋し、支援モデルの構築と提示を目的とする。

青少年期および大学時代は、自己形成における「もう一つの発達臨界期」と位置づけられる。親子関係や生育歴によって形成された内的世界は、大学生や青年教師の適応、対人関係、メンタルヘルスに深く関わっている。また、いじめや不登校、発達障がいといった現象は、学校内の課題にとどまらず、社会文化的文脈の中で理解されるべき問題である。これらの課題は、日中両国をはじめアジア全体に共通する構造的問題でもある。現代社会は、人口動態の変容、教育制度の多様化、家族構造の変質、国境を越えた情報・文化交流の深化といった複合的変化のただ中にある。日中両国は文化的共通性を有しつつも、教育制度、福祉政策、家族観、ソーシャルサポートの形態において異なる発展を遂げてきた。この差異と共通性は、相互学習と知の共創を促す重要なフィールドである。

国際比較研究の蓄積は、青少年期の心理的自立観、教師文化とメンタルヘルス、家族関係、いじめの社会文化的規定因など、多様な視点を豊かにしてきた。こうした知の対話は、単一文化的理解や制度的慣習を超え、支援の在り方と文化固有性が交錯する地点を照らし出すものである。

本特集は、日本と中国の国際共同研究の成果と視座に基づき、教育・福祉・心理の専門職、そして未来を担う若い研究者や学生に対して、希望と創造の視点を提供することを目的としている。

2025年12月1日

編集委員会一同